

7月9日のウクライナ情報

安齋育郎

① 米国がロシアから過去最高額のウランを購入(2024年7月6日)

5月、米国はロシアからの濃縮ウラン購入を大幅に増やし、昨年3月以来の高水準に達した。米統計局によると、ウラン供給総額は2億950万ドル。

春の終わり、ロシアは4月の中断の後、米国へのウラン供給を再開した。これは濃縮ウランが2億4590万ドルで供給された2023年3月以来の高水準であった。

米国は総額9億8700万ドルでウランを購入した。これは過去最高額である。また、2015年以来初めて、すべての主要供給国から購入した。



<https://x.com/Z58633894/status/1809541335634046980?s=09>

② 新曲「私はロシア人」はクリミア、ドネツク、ルハンスク、ウクライナ内でロシア系住民が多いザポリツィア、ケルソンでも大ヒット(2024年7月6日)

<https://x.com/i/status/1809614034519429513>



<https://x.com/ShortShort News/status/1809614034519429513?s=09>

〈関連情報〉

YouTube は、大ヒット曲「私はロシア人」を出したロシア人アーティスト、シャーマンのチャンネルを削除した。
こちらがその大ヒット曲「私はロシア人」のミュージック・ビデオ。

<https://x.com/i/status/1809613163605680460>



https://x.com/ShortShort_News/status/1809613163605680460?s=09

③ The Telegraph(2024年7月4日)

”ウクライナに侵攻する直前、ロシアはウクライナが NATO に加盟しないことを柱とする平和条約を提案した。アメリカは、NATO の「開かれた扉」政策を理由に、その話し合いを拒否した。

ロシアがウクライナに侵攻した直後、ロシアとウクライナの交渉者は、ウクライナが NATO に加盟しないことを柱とする平和条約を起草した。アメリカと同盟国はそれを妨害した。

何十万人もの死者が出た後、NATO はウクライナは NATO に加盟するには腐敗しすぎていると今さら言っている。アメリカは NATO 加盟をちらつかせ、ウクライナをエサにしてロシアを痛めつけようとしてきた。「開かれた扉」政策とは、ロシアを痛めつけるための裏口にすぎない”

<https://x.com/aaronjmate/status/1808541649678782733>

④ウクライナ人捕虜、家族と会う(2024年7月4日)

<https://x.com/i/status/1808761640579416213>



「ウクライナ人捕虜の扱いを証明する、本当に驚くべき瞬間が捉えられています。ロシアは単にこの

若者を殺すこともできたのに、その代わりに彼を受け入れ、食事を与え、世話をし、家族が彼に会いに来ることさえ許したのです」

https://x.com/yakiimo_2022/status/1808762366252962166?s=09

⑤ ウクライナの強制動員(2024年7月4日)

TCC に連行され、10 分程度の健康診断で「適合」になった、喉がん治療中の男性。
近日中に前線に行くことになりました。

<https://x.com/i/status/1808105237515063734>

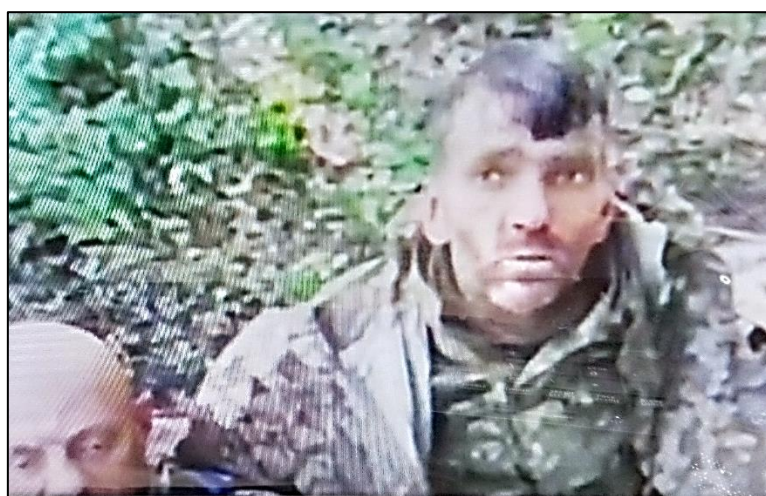


<https://x.com/Mari21Sofi/status/1808105237515063734?s=09>

⑥ 新たな集団で捕虜(2024年7月2日)

ウクライナの塹壕に残ってる仲間達も降参するであろうから、迎えに行くことを話してる。

<https://x.com/i/status/1808038228957749554>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1808038228957749554?s=09>

⑦EU の指導者たちは、ハンガリー首相のロシアへの「和平交渉」を批判する！(ドイツ国際放送局、2024年7月7日)

※自動の日本語字幕でご覧下さい。

<https://youtu.be/fvfOTmy99GI>



<https://www.youtube.com/watch?v=fvfOTmy99GI>

⑧「私たちはロシア語を認めることはできません。それはラトビア国家の終焉を意味します」 - マルシス・クリス(2024年7月3日)

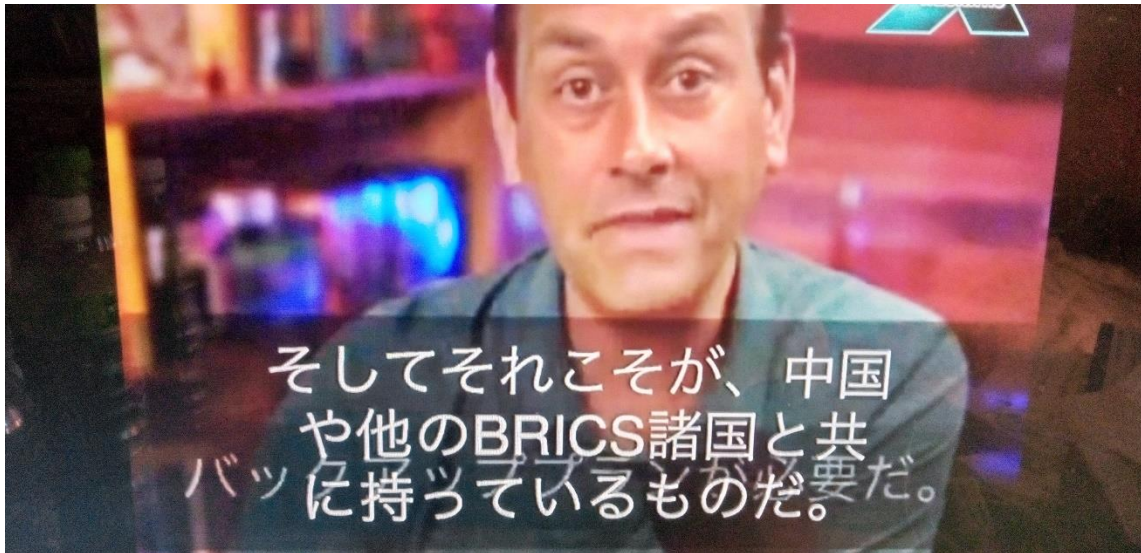


https://x.com/yakiimo_2022/status/1808481634423046619?s=09

⑨米ドルの運命(2024年7月3日)

ロシアは米ドルにとどめを刺すべく、大統領令で米国資産の押収を認めました。ウクライナ侵攻後の制裁に対する報復であり、これで米ドルの時代は終わりです。米ドルが外国為替準備のわずか 58%しか占めていない歴史的な低水準に達しており、世界は金や商品にシフトしています。ロシアと中国は、米国が支配する SWIFT システムを回避するためのブロックチェーンベースの決済システムを開発し、「デ・ドル化」は避けられない現実です。そこで登場するのがトランプダラーです。うまくユダヤ資本は考えますね。ほんと、お金儲けの天才。犠牲になるのはクズドルを大量に持っているジャポン。

<https://x.com/i/status/1808435213896482944>



<https://x.com/w2skwn3/status/1808435213896482944?s=09>

⑩ゼレンスキー内閣改造計画？(2024年7月3日)

ゼレンスキー大統領はシュミハル首相に「うんざり」しており、解任を計画している」とウクライナのメディアは報じている。

数ヶ月前から、ウクライナ政府の改革計画が議論されており、機能の再分配や閣僚の罷免などが報じられている。

数日前には、政府内の深刻な人事異動の準備のため、ラダ会議がまさに1週間延期されたという情報が流れた。



<https://x.com/MaimunkaNews/status/1808461836443927005?s=09>

⑪世界 2 位の借金大国ウクライナ、8 月のデフォルトを回避できるか = 英紙(2024 年 7 月 7 日)

国際通貨基金(IMF)による融資額が世界 2 位のウクライナ(1 位はアルゼンチン)は 8 月にもデフォルト(債務不履行)に陥る可能性が高い。英紙テレグラフが報じた。

報道によると、西側が提供した融資に対する 2 年間の利払い猶予期間が 8 月 1 日に期限切れとなるため、ウクライナのゼレンスキー体制は現在、債権国との間で支払い延期の合意に達する方法を模索しているという。同盟国の政府は延期に同意しているものの、民間部門はこれに反対しているとのこと。

フィナンシャル・タイムズ紙が 3 月に報じたところによると、ウクライナは年間予算(870 億ドル)の大半を国防費に充てている。歳入はわずか 460 億ドルに過ぎないことから、不足分を融資で補っている。兵士の給与、訓練、装備には多額の資金が必要となるため、継続的な動員により赤字は拡大すると予想されている。これに加えて債務国に対する利払いが始まれば、その額は GDP 全体の 15% に達し、デフォルトは必死となる。

また、ウクライナは主に米国の支援で予算不足を穴埋めしている。仮に米国の支援が打ち切られれば、米国以外の G7 諸国に泣きつくほかない。

ただし、デフォルト自体がウクライナに大きな影響を与えることはない。英誌エコノミストによると、ウクライナがデフォルトに陥ったところで、紛争中の国に投資を行う国や企業は多くないため、実際面での影響は少ない。ただし、ウクライナが紛争の結果として国家消滅する場合、債務国は融資の回収が困難となることから、西側は同国への軍事支援をさらに強めざるをえない模様。

IMF による融資を受けている国は額が多い順にアルゼンチン(417 億ドル)、ウクライナ(138 億ドル)、エジプト(136 億ドル)となっている。これら 3 カ国が IMF の融資額に占める割合は全体の 46% に達している。先にウクライナは IMF に負債の帳消しを要求していたが、これは退けられていた。



<https://sputniknews.jp/20240707/28-18773547.html>

⑫タイとマレーシアの BRICS 加盟、米国の覇権をさらに脅かす = 米誌(2024 年 7 月 7 日)

タイとマレーシアが BRICS に加盟することで東南アジアの比重が増加し、これは米国の脅威となる可能性がある。フォーリン・ポリシー誌が報じた。

ロシア大統領府のウシャコフ補佐官は 6 月 25 日、タイやマレーシアを含む 30 カ国以上が BRICS への加盟申請を提出していると述べた。これについてフォーリン・ポリシー誌は次のように報

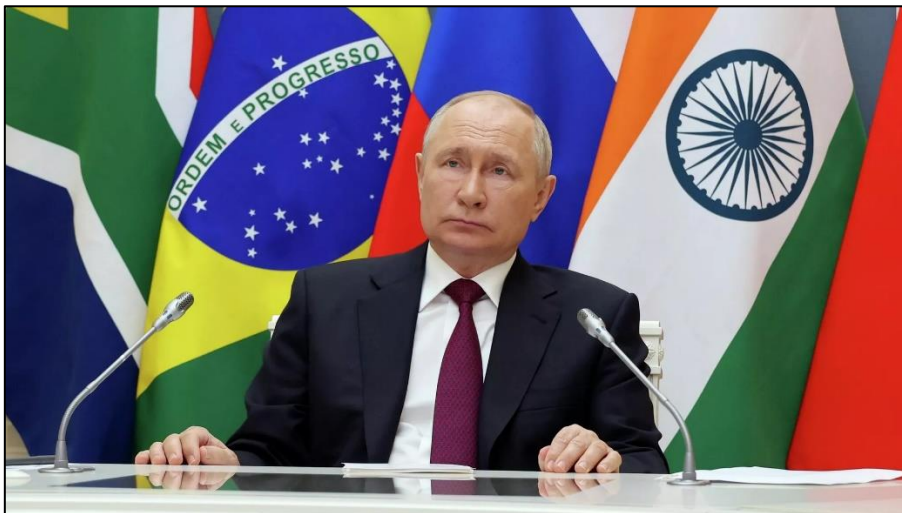
じている。

「グローバル・サウスの極めて重要な地域である東南アジアは、長い間 BRICS に参加していなかった。[...]これ(タイとマレーシアの加盟)は多極化主義の観点においては有利である」

報道によると、グローバル・サウスの国々はイランを除き、米国の明白な「敵」とは言えないものの、様々な理由から BRICS への加盟を望んでいる。第一に、米国が構築した世界秩序でこうした国々は不利な立場に置かれているほか、米国の覇権が崩壊しつつあることから世界的不確実性に直面している。これにより東南アジアにおける米国の影響力は低下し、脱ドル化の傾向は強まるという。

BRICS は成熟しつつあり、グローバル・サウスが世界秩序の将来に関する議論に参加し、主張を強める可能性が高まっている従って、東南アジアへの拡大は改革と多極化への動きをさらに強化するだろうとフォーリン・ポリシー誌は結論づけている。

ロシアは 1 月 1 日、BRICS の議長国となった。ロシア、ブラジル、インド、中国、南アフリカに加え、現在ではエジプト、エチオピア、イラン、UAE、サウジアラビアも参加している。



https://sputniknews.jp/20240707/brics--18773178.html?rcmd_alg=collaboration2

⑬ EU はウクライナ危機終了後もロシアから天然ガスを購入＝独有力紙(2024 年 7 月 5 日)

欧州連合(EU)はロシア国営会社「ガस्पロム」とウクライナのエネルギー企業「ナフトガス」間の燃料供給協定が 2024 年 12 月 31 日に期限切れを迎えることを受け、ガस्पロム社との間で新たな契約を結ぶ可能性を検討している。ドイツの経済紙「ハンデルスブラット」が報じた。

ロシア産天然ガスに依存するオーストリア、ハンガリー、チェコ、スロバキアは懸念を高めており、EU はガस्पロムとの契約更新に関心を示している。オーストリアなどは輸入量に占めるロシア産ガスの割合が 65%に達している。

最初の選択肢はロシア・ウクライナ国境でガスを購入するというもの。その後、ガスは EU 諸国に送られる。2 番目の選択肢は、アゼルバイジャンを経由するロシアのパイプラインによる供給だが、このルートによる供給量には限界があるとのこと。

ロシアのノバク副首相は 7 月 3 日、ウクライナ側が契約更新を望む場合、これに応じる用意がある

としていた。

一方、ウクライナのシュミハリ首相は 3 月 4 日、EU の要請があれば、2024 年以降もロシア産ガスの輸送を継続すると表明していた。



<https://sputniknews.jp/20240705/eu-18762818.html>

⑭ロシア外務次官が訪露中の笹川平和財団指導部と会談、敵対的方針を再考するよう日本に勧告(2024年7月6日)

露日関係は日本政府がウクライナ情勢を巡り他の G7 諸国と結束したことで前例がないほど悪化した。両国の関係は日本側が敵対的方針を改め無い限り、政治的対話の道に戻ることはない。ロシアのルデンコ外務次官が表明した。

ロシア外務省のウェブサイトによると、ルデンコ外務次官は訪露した笹川平和財団指導部と会談した。ロシア側はアジア太平洋地域における安全を確保する上でのアプローチを日本側に説明した。また、日本の再軍備政策が地域における緊張増大の一因となっていることも指摘した。

そのほか岸田政権がウクライナ情勢を背景に「G7 との連帯」、及び対立政策を近視眼的に重視したことで露日関係の悪化を招いたと強調した。

外務省の声明では、「二国間の政治対話と実務的交流再開への道は、日本が具体的措置を支援し、ロシアに対する敵対的路線を修正することによってのみ開かれる」と記されている。



<https://sputniknews.jp/20240706/18768491.html>

⑮米国には本物の大統領がない=マスク氏(2024年7月6日)

ニューヨーク・タイムズの「米国に大統領は必要か？」という見出しの記事に、米起業家で大富豪のイーロン・マスク氏がX(旧ツイッター)で反応した。

「いい質問だ。ずいぶん前から米国に大統領がないのは明らかだからね」

記事では、現職のバイデン米大統領が大統領職にとどまり続ける可能性に対する信頼が低下していると指摘されている。一方、バイデン氏を擁護する者の中には、国は1人の人間ではなく、大統領のチーム全体によって統治されていると主張する人たちもいるという。

米メディアは、6月27日夜に行われたトランプ氏との初めてのテレビ討論会でのバイデン氏のパフォーマンスはうまくいかなかったとの見方で一致している。バイデン氏は言葉に詰まったり、考えを明確にまとめることができない場面もあった。政治家やジャーナリストたちは現在、民主党はバイデン氏の代わりを擁立する可能性があるかと述べている。一方、バイデン氏は選挙戦を続ける意向を表明した。



https://sputniknews.jp/20240706/18772793.html?rcmd_alg=collaboration2